第2回LNGバンカリングガイドラインの改訂に向けた検討委員会　議事概要（要約版）

委員会概要
【日　時】：令和5年3月24日(金)　午後3時00分～4時45分 【場　所】：砂防会館　別館1階ジェーンバッハ・サボー木曽会議室
議事内容
○公益社団法人 日本海難防止協会から説明 ・議題1　第1回検討委員会議事概要について ○一般財団法人 日本海事協会から説明 ・議題2　国際安全基準とガイドラインとの整合性について（Truck to Ship・Shore to Ship） ○株式会社 日本海洋科学から説明 ・議題3　LNGバンカリングにかかる関係法令及び手続について（Truck to Ship・Shore to Ship） ・議題4　国内事業者からのヒアリング結果及び事業実績について（Truck to Ship・Shore to Ship） ・議題5　海外のLNGバンカリング事業に関する調査について（報告） ・議題6　LNGバンカリングのビジネスモデルに関する調査（報告） ・議題7　LNGバンカリングガイドラインの改訂案について ・議題8　令和5年度に引き続き検討すべき事項 ・議題9　報告書目次案 ○主なご意見 ➢　LNGバンカリングにかかる関係法令及び手続について（Truck to Ship・Shore to Ship） ・　例えば造船所がTruck to Shipを行いたいときに造船所は消防署に何か手続き等が必要になるかと思う。そのようなことも記載いただけるとわかりやすい ➢　海外のLNGバンカリング事業に関する調査について（報告） ・　欧州の状況を見ると夜間のバンカリングが比較的多く行われているようであるが、何か理由はあるのか。 ・　“AISにバンカリング中を示すStatusが国際標準化させることが推奨される”とあるが、バンカリング中であることが公になることでセキュリティ上の安全が損なわれる可能性も考えられる。この記載の意図をお教えいただきたい。 ・　海外でローディングアームを用いてShore to Shipを実施している事例を把握しているか。 ➢　令和5年度に引き続き検討すべき事項 ・　夜間の接舷シミュレーション実施回数が昼間と比較してはるかに少なかったとのことであるが、夜間の実施回数が少なかった理由や検討結果にどう反映されたのか。

・ 昼間にバンカリングを開始して夜間まで継続されるようなケースも夜間バンカリングの中で検討いただきたい。
・ 海外事例などを見ても一定の習熟をしてから夜間の実施をしたほうがよさそうであり、習熟の基準なども次年度検討していただきたい。
・ 各海難防止団体とも情報共有を図って齟齬のない検討を行っていただきたい。
・ オペレーションは接舷、輸送等の作業に分かれると思うので、どのような照明が必要であるか作業毎に分けて考えたほうがいい。
・ 極低温による低温やけどや、ガス吸引による窒息など火災以外の危険性についても検討していただきたい。
・ 錨泊中の Ship to Ship は気象海象状況によっては燃料船の動揺や振れ回り等考えられると思うが、タグで押すようなことは想定しているのか。
・ 錨泊中の Ship to Ship に関して、安全第一であることは理解しているが、航走波まで含める必要があるのか疑問がある。

➢ その他

・ ガイドラインを国際的な基準に合わせるという趣旨に異論はない。現行のガイドラ インはチェックリスト等についても事細かに丁寧に作成されており、改訂案にはチェックリストが残されるようで感謝いたしたい。今後 LNG 移送が一般的なものになれば、経験不足の作業員のミスから大きな事故となる危険性が増すことを危惧している。また、Ship to Ship においては作業海域の地域特異性も大きく影響すると考えられ、事業者は LNG 移送に対する安全対策をより詳細に検討する必要がある。事業者は作業員に対し専門的な機関において LNG の性状を実際に体験し、その防災対策を体得できるような研修を受けさせておくことが理想であり、安全対策についても専門家による調査研究委員会等において個々に充分検討することも必要。
・ 本年度はガイドラインの改定案を事前に確認することができず時間が非常にタイトであったので、次年度検討をすすめるときは余裕を持ったスケジュールにしていただきたい。